

教科	数学	科目	数学Ⅲ・数学実践	担当	
履修学年	3年	単位数	6/2	履修区分	普通科理系
教科書	改訂版 新編 数学Ⅲ (数研出版)				
副教材等	ニューアクションβ 数学Ⅲ, I A・II B (東書) 攻略共通テストPickup128 (東書) マーク式総合問題集数学 I A/II B (河合塾)				

1 学習目標

数学についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 学習評価

評価の観点	科目の評価の観念の趣旨
a 関心・意欲・態度	平面上の曲線、極限、微分法及び積分法における考え方や体系に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。
b 数学的な見方や考え方	平面上の曲線、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に考察・表現したり、思考を振り返り多面的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
c 数学的な技能	平面上の曲線、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d 知識・理解	平面上の曲線、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点				単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前 期	4	5章 微分法	2 いろいろな関数の導関数	1 導関数の応用 2 いろいろな応用	○	○	○	○	a 微分法に関心を持ち、その意味や方法を理解しようとする。	・ 授業態度 ・ 提出物の状況 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ まとめテスト	
	5	6章 微分法の応用			○	○	○	○	b 微分法について数学的な思考や論理的考察ができる。		
	5				○	○	○	○	c 導関数を求め、凹凸を含む増減表を作成してグラフ化する技能が身につけている。		
					○	○	○	○	d 微分法についての理解を深め、導関数を求めるなど問題を解くことができる。		
	5	7章 積分法とその応用	1 不定積分 2 定積分 3 積分法の応用		○	○	○	○	a 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。	・ 授業態度 ・ 提出物の状況 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ まとめテスト	
	5				○	○	○	○	b 定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。		
	6				○	○	○	○	c グラフの上下関係、積分範囲などを図にかいて考察して、種々の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。		
					○	○	○	○	d 直線や曲線で囲まれた部分の面積や回転体の体積を、定積分で表して求められる。		
	前期中間考査										
	5	6	4章 極限(第1節)	1 数列の極限	1 2次曲線 2 媒介変数表示と極座標	○	○	○	○	a 2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。	・ 授業態度 ・ 提出物の状況 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ まとめテスト
9		2章 式と曲線	○			○	○	○	b 数学Ⅱで学習した軌跡の考えを利用して、2次曲線の方程式を導くことができる。		
			数学 I A II B 演習			ニューアクションβ I A II B III 全範囲	○	○	○	○	
○		○					○	○	d 複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察することができる。		
前期末考査											
後 期	9	数学演習	ニューアクションβ III 攻略共通テストPickup128		○	○	○	○	a 数学に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	・ 授業態度 ・ 提出物の状況 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ 定期考査 ・ まとめテスト	
	5				○	○	○	○	b 多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		
	11					○	○	○	○		c 数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
						○	○	○	○		d 基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
後期中間考査											
11	5	数学演習	2022マーク式総合問題集 I A II B						a		
	1								b		
									c		
									d		

4 考査の観点別配点

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	20	20	20	
b	20	20	20	
c	30	30	30	
d	30	30	30	
計	100	100	100	

5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- (1) 授業は休まないこと。(欠課や公欠のときはノートを翌日写す)
- (2) 授業中にその日の家庭学習内容を確認すること。
- (3) 問題集を使って家庭で復習・演習をすること。
- (4) 授業の翌日に問題集ノートを提出・点検する。
- (5) 単元テストは7割合格とする。
- (6) テスト後は直ちにテストノートを作成すること。テスト用紙の添付と感想の記入を忘れないこと。
- (7) 論理に飛躍のない解答(記述力)をつくるよう、言葉を大切にすること。
- (8) わからないところはそのままにせず、積極的に質問すること。